

2023 年春季 参加報告書

参加プログラム：トゥレーヌ学院

参加時の学年：2 年、学部：人文、学科：ヨーロッパ文化

私はフランス語の語学力向上のため、中でも会話スキルを身に着けたいと思い留学を決意しました。実際に留学を通して、相手の会話を聞き自分も考えながら話すことはとても難しく、大学の授業で学んだことはまた別のスキルが必要であると実感しました。一か月の短期間ではありましたが、日本では得難い経験であり確実に会話スキルの向上につながっていると感じました。

留学生活では、語学学校で基礎を学び、ホームステイ先で実践するというよい循環の中にいました。まずクラス内では、わからなければその場で質問することを意識して臨んでいました。おかげで教師との歩調が合わせやすく、説明を聞くことでさらに学びを深め語彙を増やすこともできました。例えば「déménager」の説明のために「changer de maison」と言い換えたことで、「changer+de+無冠詞名詞単数形」という表現を知りました。また自分で発言することで、アクセントが正しくないと音はあっても理解されないことが多く、アクセントの重要性を実感しました。そしてホームステイ先での会話は実践的かつ留学生活だからこそ経験であったと言えます。私のホームステイ先には、マダムとムッシュ、そして3人の留学生(アメリカ人2名、スペイン人1名)がいて、ディナーの時間にはみんなで食卓を囲み議論が始まります。初日のディナーから年金受給開始年齢の引き上げについての議論が行われ驚きました。他にも大学の無償化やフランスの離婚制度など話題は様々で、最初はテーマを理解するので精一杯でした。しかし毎日必死に聞き取ろうとしているうちに段々と理解できる割合が増え、最終週にはなんとか自分の意見を僅かばかり返すことができるようになり、自分の成長を感じられる良い機会でした。また、序盤は先に脳内で文章を作りあげてからなぞるように発言していたのが、中盤からは思考しながら話すようになったのも、このディナーでの経験による変化だと考えています。

また、今回得られた経験は語学学校とホームステイ先の中だけではありません。モンサンミッシェルやパリに出かけたことはもちろん、トゥールの街で過ごしているだけで様々な体験をしました。例えば、公園で隣のベンチに座っていた元大学教授の年配の男性と1時間以上日本の文化(主に三島由紀夫)について話したり、行きつけのタルト屋さんの店員さんと仲良くなったり、語学学習者たちが集まる会に参加したり。トゥールの人たちは気軽に話しかけてくれますし、こちらが質問しても優しく答えてくれますから、臆さずにいればフランス語を話す機会はいくらでも作れました。

会話ができるようになりたいと思い参加した留学でしたが、いざフランス語で会話をしようとする想像以上に難しかったです。そもそも相手の話を聞き取って理解することも難しく、分かったとしても返答をフランス語で考えるのにまた時間がかかるので、1日目はほとんど会話ができませんでした。まずは相手の話を聞き取れるようになり、次に簡単なあいづちくらいは返せるようになり、そこからさらに自分の意見を言って話を続けられるようになります。今回の留学では3段階目に進みかけたあたりで終わってしまいました。しかしそれでも会話の楽しさと必要なスキルをより具体的に実感したことでリスニングとスピーキングへの苦手意識がなくなりました。これまでリーディングに頼っていた語彙や表現の吸収を今後はリスニングも並行して行なっていきたいと思いました。

今回経験した自分が思うように会話ができない悔しさと新しいことを学ぶ楽しさは、もともと来年度の目標においていた仏検2級合格へのモチベーションになります。また、フランスでは基本的な単語であっても知らないものが多く自分の語彙には偏りがあると感じたので、今度はより多くの本やニュースに触れるだけでなく、DELFにも挑戦しフランス語の幅を広げていきたいと思いました。